

来訪者による市内周遊の促進に向けたレンタサイクル設置の効果検証

静岡県立大学経営情報学部 八木研究室 大久保あかね観光研究室
指導教員：教授 八木健祥 大久保あかね
参加学生：秋本航 阿部太一 飯塚遥 奥村穂乃香 金原可奈
佐野果蓮

1 要約

本研究では、イベントによる来訪者の宿泊地として利用される菊川市において、レンタサイクルを用いた周遊を促進するためのマップ作成と提案を行った。

具体的には、大学生が独自の視点から立ち寄りスポットを選定し、菊川市の地域資源を生かした経路を設計することで、周遊促進や魅力発信に寄与できるマップの作成を目指すものである。また、モニターツアーから明らかとなった、レンタサイクルを用いた観光の利便性、満足度向上のための改善案と、住民が菊川市の魅力を再認識し、観光客を受け入れるための姿勢を構築するための提案を行った。

2 研究の目的

菊川市は、食や自然、寺院などの「地域資源」は豊富に存在するもののそれらの知名度は低く、来訪の目的となる「観光資源」に成り得ていないため、現時点では観光目的の集客を行うことは難しい。しかし、エコパアリーナやつま恋リゾートなどの周辺地域にある施設で行われるイベントに来訪した人の宿泊地として利用されるケースが多く、これら来訪者は観光政策を実行するうえで無視できるものではない。また、観光政策のひとつとしてレンタサイクル事業を開始しており、これの活用による地域内の周遊促進のための取り組みが求められている。

本研究では、レンタサイクルを活用し、観光目的ではない来訪者をターゲットに地域内の周遊促進を図るためのマップの作成と提案を行うことを目的とする。また、モニター評価による地域資源の価値の顕在化や認知度の向上を図り、市民の来訪者を迎える意識、おもてなしマインドの向上を図る。

3 研究の内容

本研究では、サイクリングマップの作成と地域資源の再評価を以下のようなスケジュールで、視察を2回、実走を3回、モニターツアーを1回実施した。また、それぞれのタイミングで対面のミーティングを、適宜オンラインでのミーティングを行った。

・4月14日【キックオフミーティング】

菊川市役所の方から、菊川市の概要や課題、プロジェクトに関する具体的な進め方などの説明を受けた。

・5～6月【視察】

菊川市役所から提案を受けた立ち寄りスポットの候補地や、SNSなどを用いて調べ選定した、採用できそうな立ち寄り場所への視察を2回に分けて実施した。菊川市が当初マップの中心として想定していた「せんがまの棚田」や「茶畑」に関しては、視察の結果、マップに採用しないこととした。

その他、飲食店やお菓子屋、観光名所などを視察し、採用場所の選定やテーマの設定を行った。また、移動が自転車であることやターゲットがライブなどのイベントに参加する若年層の女性であることを考慮し、大学生の視点から評価、選定を行った。

・7月【コース作成】

視察の結果から、大きく北部「菊川地区」と南部「小笠地区」の2つのコースを制作することとし、それぞれに立ち寄りスポットと、それをつなぐ経路の設定を行った。視察では主に立ち寄りスポットに重点を置いていたが、コースを作成する際には、移動が単調にならないよう、あえて茶畑や河川敷などを通るような道を設定するなど、経路も重視した。また、トイレやコンビニエンスストアなどをピックアップし、困ったときに立ち寄れるように経路を工夫した。



写真1 キックオフミーティング

・8～9月【実走】

作成したコースをもとに、実際に貸し出されているレンタサイクルを使用し実走を行った。主に作成した経路を検証することが目的であり、迷いやすい場所や走りにくい場所、安全性に欠ける場所などを洗い出し、適宜コースの修正を行った。

また、地図でみたときや車での移動ではわかりにくい距離感や、高低差に関しても検証し、立ち寄り場所としての評価が高くてもサイクリングマップとしては適さない場所などを見つけることができた。

・10月【マップ作成】

実走前に作成したコースに修正を加え、デザイン案などに注意しながらマップの作成を行った。この際、菊川市観光協会に協力を依頼した。デザイン案は、菊川市で配布されている既存のマップと被らないこと、大学生らしさを出すこと、実用的であることに注意し、他地域で作られているマップを参考に決定した。

・11月30日【モニターツアー実施】

菊川市に訪れたことのない大学生9人を対象に、モニターツアーを実施した。その際、完成したマップを配布し、各スポットへの立ち寄りや商品の購買、Google フォームを用いたフィードバック評価への協力を依頼した。モニターツアーでは、2～3人のグループを作り、それぞれのコースに2グループずつ分かれ、実施した。進捗確認のため、必ず立ち寄る場所をいくつか設定し、それ以外は自由に回ってもらうこととした。マップやコースに対して、有意義な意見を聞くことができ、改善に生かすことができた。

・1月【マップ完成】

モニターツアーでの評価や意見をふまえ、マップの最終的な改善を行い、実際に配布するマップを完成させた。



写真2 実走の様子



写真3 モニターツアーの様子

4 研究の成果

(1) 当初の計画

① モニターツアーの実施（5月～8月、3回程度）

- ・既存マップを基にしたレンタサイクルによる市内周遊
- ・立寄り場所の評価

(何の、どんなところが、どのように良いのか…行きたいと思う感情にする要因を探求)

② モニターツアーを通じた周遊マップの変更（6月～9月、3回程度）

- ・モニターツアーの実施結果を踏まえて、周遊マップを適宜変更
- ・立寄り場所の魅力を追加

(2) 実際の内容：B一部修正

当初の計画ではモニターツアーを3回程度行う想定だったが、1回のみの実施となってしまった。理由は、最初の2回の視察が雨天のため、自転車を用いた実走ができなかったこと。また、人数や時間的な制約のため、計5回の現地調査を要してしまったことから、マップの完成が遅くなってしまったためである。

(3) 実績・成果と課題

- ・実際に作成したマップ

菊川市の中で北側(みどりの風景ロード)と南側(甘味と禅の体験コース)で2枚のマップを作成した。第一段階のマップでは、複数の改善点が見つかったため、それらを修正した。以下が実際に作成したマップである。



マップ1 みどりの風景ロード



マップ2 甘味と禅の体験コース

・マップに期待される効果

①隙間時間に楽しめるコンテンツの提供、②菊川市内周遊促進、③若者目線の菊川の良さを発信、④住民がまちの魅力を再認識できるという、4つの効果が挙げられる。

菊川市内のスポットを学生視点で数か所ピックアップすることで、菊川市を訪問した人に隙間時間でも楽しめるコンテンツの提供をすることができた。また、コースを作成することでスポットとスポットをつなぐ役割を果たし、菊川市内の周遊を促進することにつながると考える。なによりも、学生自身がプロジェクトを行う過程で視察や実走を繰り返し行い、マップに掲載するスポットを選定したことは、若者目線の菊川の良さを発信できると考える。最後に、レンタサイクルの利用者が菊川市内を周遊することで、市内の様々なスポットや店舗を訪れることは、地元住民が菊川市の魅力を再認識する機会になると期待できる。

・モニターツアーの参加者アンケートの結果

モニターツアーの参加者9名に対し実施したアンケートでは、モニターツアー全体の評価、その理由、ツアー内の消費額、自転車についての感想、再訪意欲、他人推奨意欲について調査した。評価については、モニターツアー全体を「とても満足でない」から「とても満足」の5段階で回答していただき、平均評価4.0となり、満足した人が多いという結果になった。満足した理由については、自転車に乗っている爽快感や景色という意見が多いことが分かる(図1)。

また、モニターツアー中に消費した額については、9人全員が1,000円以下という結果になった(図2)。これは、コース内の立ち寄り場所であるお菓子屋での購入が主となっている。加えて、菊川市側がレンタサイクルの利用者に配布しているクーポンを使用したという意見も多く、クーポンによって消費が促進されたという結果になったと考えられる。

今回のモニターツアーは、午後のみで行い、昼食が含まれていないため、本来のコースならば昼食を含めたさらに高い消費額が期待できる。

自転車についての感想では、乗り心地が良かった、道路の凹凸があるところは走行しづかったという意見があった。さらに、再訪意欲については、「二度と来たくない」から「ぜひ訪れたい」の5段階で回答していただき、平均評価4.1となり、また菊川市に来たいと思うことが分かった。他人への推奨意欲についても、「とても勧めたくない」から「とても勧めたい」の5段階で回答していただき、平均評価3.9となった。友人・知人・家族に菊川市のレンタサイクルを勧めたいと思った人が多いということが分かり、再訪意欲に比べて他人への推奨意欲の方が低い結果となった。



図1 満足度の理由のテキストマイニング

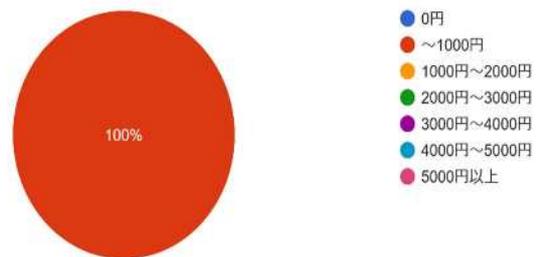


図2 モニターツアー中の消費額

(4) 今後の改善点や対策

実走やモニターツアーを行う中で、「曲がり角が分かりづらい」、「草が生えていて走行しにくい」という意見があり、道路標示の整備や雑草の駆除などの環境整備を行うことで、さらにレンタサイクルの満足度が高まるのではないかと考える。また、視察をする中で、菊川市の住人の方やお店の人と話す機会が多くあり、人の温かみや、菊川市の歴史・お祭り、暮らしぶりに触れることができた。そのため、レンタサイクルを通じて、地元の人との交流にも派生するのではないかと考える。

5 課題提出者・地域への提言

ハード面の整備

自転車走行での安全性と満足度向上の観点から、矢羽の導入や草刈などのハード面の整備が必要と考える。矢羽により自転車の走行位置を明示することで、自転車走行の安全性が高まり、安心して利用することができる。また、曲がる場所がわからないといった意見が多かったことから、矢羽を用いて道順を示すことで迷う心配がなくなり、満足度の向上へとつながるのではないかと考える。

今回作成したコースでは、あえて大通りではなく茶畑や河原、田んぼ道などを走る経路を設定した。そのため、場所によっては雑草が生い茂っており、その雑草に虫が集まり、走行中に不快感を抱くといった問題が発生した。コース内の定期的な草刈などを行うことで、さらなる満足度の向上につながるのではないかと考える。また、利用中に電動自転車の充電が切れ、返却スポットまで帰ってこられなくなる可能性を考え、コース内のいくつかの立ち寄りスポットにあらかじめ予備のバッテリーを用意しておき、充電切れに対応できるようにしておくことを提案する。

町の人と触れ合える場の提供

立ち寄りスポットに指定している場所ではレンタサイクルを使った観光に関して説明をしているものの、それ以外の店や住民に対しては何をしているのかを伝えることができていないため、住民から独立した活動になっていると感じた。実走やモニターツアーでも、自転車に乗っている集団を住民の方が不思議そうな目で見るといった場面が幾度かあった。そのため、住民に対しての発信活動を行い、利用者が町の人と関わられるようなシステムづくりが必要となる。住民が観光客を認識し、交流を持つことで、住民の観光客に対する考え方も変わり、おもてなしをするマインドの形成をすることができるのではないかと考える。

マップのデジタル化と音声案内

現在は紙のマップしかないため、自転車に乗りながら利用できない、持ち運びにも不便といった問題の発生が考えられる。そこで、今回作成したマップをデジタル化して配布することで、さらなる利便性の向上が期待できると考える。また、デジタル化に続き、音声案内をできるシステムを導入することで、走行中にマップを見る必要がなくなるほか、現在地に合わせて音声流れるため、道に迷うなどの心配がなくなる。

6 課題提出者・地域からの評価

菊川市では、静岡県観光協会とともに市内宿泊者の属性データ分析を行ったところ、コロナ禍を経て市周辺のライブ会場などを目的に菊川市には若年層が多く来訪していることがわかった。そこで、ターゲットを若年層と設定し、今年度からレンタサイクルを設置して、市内に点在している観光スポットや店舗などを周遊できる環境を整備したところである。ターゲットとなる若年層のニーズを把握するため、今回大学生にマップ作成や提案等を行ってもらった。

大学生には、市内を視察、実走してもらい、菊川市を訪れたことがない若者の新鮮な目線でも市内観光スポットや店舗を見てもらった。そこから、マップにスポットや店舗を厳選して掲載し、大学生目線でのスポットでの楽しみ方や潜在的な魅力等のコメントを記載し、マップが完成した。大学生と意見を交わす中で、茶畑や河川敷などの市民には当たり前となっていることが、市の魅力だと再発見できる良い機会となった。また、店舗の方々と話をしてもらったことで、観光の受入れ側のマインド醸成にもつながった。今後は、今回作成したマップを活用し、さらなる誘客につなげていきたい。

